



ベトナムの親達の猛烈な投資熱

近年、ベトナムの経済発展と共に、特に都市部に住む人々の収入が大幅に増加しています。この収入の増加と低い出生率により、ベトナムでは、子供用品や子供向け娯楽、特に教育的要素を含むものに、より多くの金銭を投じられるようになりました。

(1) 子供用品に対する強力な購買意欲

ベトナム都市部に住む親達は、「子供には常に最良の物を」という意識を持っています。そして、外国企業のみならず、多くの国内企業も、高価な子供用品の取り扱いに焦点を当てています。このため近年、子供用品市場は大幅な伸びを見せてきました。ママ向け・子供向け商品及びサービスの市場規模は、年70億米ドル（約760億円）にも達しています。ニールセン消費行動研究センターの調査によりますと、成長率は年30-40%になるようです。

コン・カン（Con Cung:ベトナム語で“My Dear”）やビボ・マート（Bibo Mart）、キッズ・プラザ（Kids Plaza）などの小売りチェーン

店は、短期間に規模を拡大させました。

2011年の創業のコン・カンの過去2年間の新規店舗の開店スピードは凄まじく、ベトナムにおけるママ向け・子供向け用品の代表的な小売チェーン店に踊り出しました。2016年に100店舗、2018年には400店舗を超えるまでになり、全国45の州に店舗展開し、2000以上ものアイテムを取扱っています。ビボ・マートとキッズプラザはそれぞれ150店舗、70店舗を展開しています。

(2) 娯楽に対しても投資意欲は旺盛

前述のニールセンの調査によりますと、ベトナムの親達は、子供達が遊ぶための施設の利用に対しても惜しまず投資していることが分かっています。

全国平均では、各家庭で月約50万ドン（約2,400円）が子供達の娯楽に投じられています。都市部ではその3-4倍、つまり月150万ドンから200万ドン（約7,000円～9,500円）にまで跳ね上がります。ホーチミン市やハノイ市では、職業体験や室内遊びなどができる



ビボ・マートの店内



娯楽施設の1つであるティニ・ワールド

ヴィエトピア (Vietopia) や、キンダー・パーク (Kinder Park)、ティニ・ワールド (Tini world) などの子供向け商業施設が充実しています。もし、何らかのスキルを身に付けるためのトレーニングを提供する施設に通わせようものなら、月500万ドン (約23,000円) は必要となります。

(3) 教育に対する投資熱

未来への投資として、子供の教育にも多くの費用が費やされています。英語や、ライフスキル、ソフトスキルなどを磨くためです。

近年、ベトナムでは、インターナショナル・スクールが熱を帯びてきています。多くの親達が従来型の教育とは異なる環境で子供を学ばせたいと考えるようになっており、海外発の学校に通わせることを選択しています。しかも、この傾向はどんどん若年化の様相を呈するようになってきました。幼稚園から外国語を学ばせる親は多く、小学1年生や2年生の段階で留学をさせたり、ギフトッド・スクール (編集者注: 子供の才能を伸ばすための一種の英才教育を施す学校) に通わせる親もいます。

マスターカードがアジア太平洋地域の16カ国で行った教育費に関する調査によれば、ベトナムの親達の39%が子供の外国語教育に金銭的投資をすると答えています。この割合は、韓国の46%に次ぐ高さです。

さらに親は、驚くような額の金銭を投じ、子供に海外で英語を学ばせています。例えば、アメリカやオーストラリアでのサマーキャンプには、3週間で5,100米ドル (約55万円) から5,800米ドル (約63万円)。カナダでの2週間のキャンプには6,000米ドル (約65万円)。そして、シンガポールやフィリピンでのキャンプには2,600米ドル (約28万円) の費用がかかります。

外国語の他には、「ライフスキル」や「ソフトスキル」を育むために、軍隊式のサバイ



ケンブリッジ・インターナショナル・スクールの1つ「VINSCHOOL」はハノイ市内に位置し、多くの親達からも人気

バル術や、多文化共生の理念を学ぶコースもありますが、これらもやはり高額です。

子供を立派に育てるのは骨が折れる作業の連続です。子供にすくすく育ってもらいたい、そして良い大人になってもらいたいと願うのは、どの親も同じです。しかし、どこの国でも文化でも、子供への投資の他にも配慮すべき大切な要素があることはいまでもありません。

著者紹介



Ms. DO Thi My Lien
(ド ティ マイ リエン)

GIP ASEANのベトナムメンバーオフィス (HAVIP Intellectual Property Co., Ltd.) 所属。ベトナム国立大学で英語学士修了後、経営学修士取得。国際商標協会 (INTA)、アジア弁理士協会 (APAA)、国際知的財産保護協会 (AIPPI) 会員

編集者紹介



魯 佳瑛 (ノ・カヨン)

日本弁理士、新樹グローバル・アイビー特許業務法人所属。1981年韓国ソウル生まれ。ソウルの成均館大学卒業。2006年よりソウルの特許事務所での知的財産分野のキャリアをスタート。結婚をきっかけに来日。2014年日本弁理士試験合格。専門は、商標・意匠。